

「歩きスマホ」が 周回の歩行乱す

ユニークな科学研究などに贈られる「イグ・ノーベル賞」の授賞式が9日、オンラインで開かれた。なぜ歩行者がほかの歩行者にぶつかることがあるのか実験、検証した京都工芸繊維大の村上久助教ら日本の研究チームが「動力学賞」を受賞した。日本人の受賞は15年連続。

「物理学賞」は対照的に、鉄道駅での人の流れを分析し、なぜ歩行者はほかの歩行者にあまりぶつからない

イグ・ノーベル賞 日本人15年連続

いのかを解き明かしたオランダなどのチームに授与された。

村上助教らのチームは、横断歩道のような場所で2つの歩行者集団が向かい合ってすれ違う際、一部が「歩きスマホ」をしているだけで本人だけでなく周りの人も歩行が乱れ、ぶつかる直前に大きくかわすようになることを実証。視覚的に注意をそらされると、互いの行動を予期できずに衝突すると結論付けた。

研究チームは他に東京大の西成裕教授とクラウディオ・フェリシヤーニ特任准教授、長岡技術科学大の西山雄大講師。

(ニューヨーク 共同)